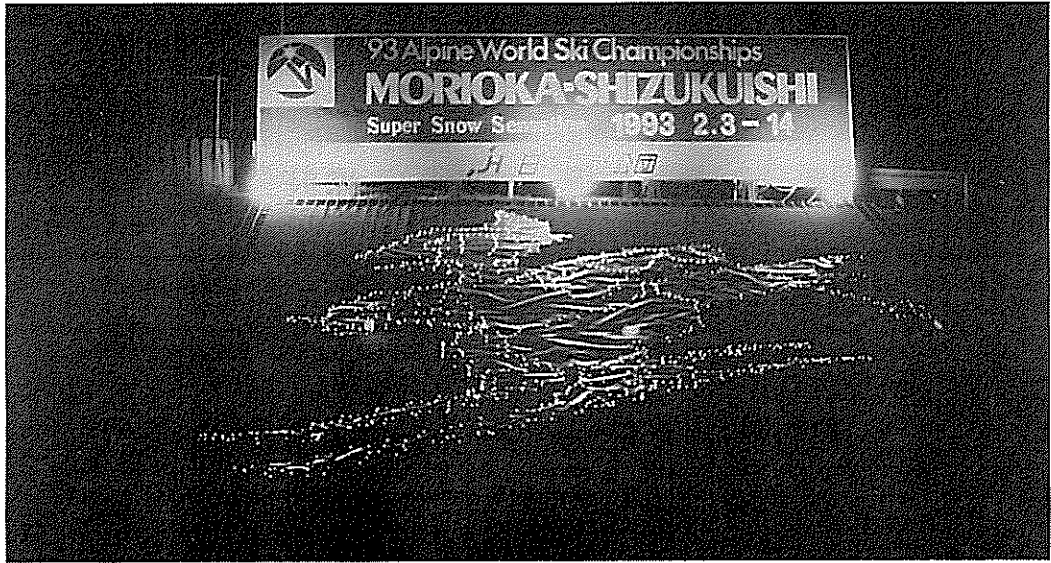


# 岩手郡医報

平成5年1月 No.39

編集 発行  
岩手郡医師会

題字 雫石町高橋孝先生



’93 アルペンスキー世界選手権 盛岡・雫石大会 〈夜光にはえる『ケンタとミミ』〉

拡幅工事の完了した国道46号線と東北高速道の交差する地点。アルペンスキー世界選手権、盛岡・雫石大会マスコットの「ケンタとミミ」。ライトアップされた大会広告板の前で豆電球の点滅でスキーをしている姿を暗闇の中にくっきりと浮か出して通行者の心を和ませ、来たる大会の成功をアピールしている。〔上原記〕

## 目次

’93 アルペンスキー世界選手権 盛岡・雫石大会 .....	1
岩手郡地区学校保健会研修会 .....	高橋 孝 2
岩手郡医師会社会保険医療担当者集団指導について .....	高橋 孝 3
郡医師会講演会 .....	盛岡大学学長 高橋富雄 先生 4
平成4年度岩手県民健康講座カリキュラム .....	5
おらほの先生 .....	滝沢村 山田小児科内科医院の巻 6
随想 袖山の紅葉 .....	西島 康之 7
短歌 .....	坂井 博毅 7
岩手郡医師会役員会 .....	8
編集後記 .....	8

## 岩手郡地区学校保健会研修会

岩手郡医師会学校保健会担当

高橋 孝

日時：平成4年10月24日(土) 14:30～

場所：岩手県公会堂

### 演題 『病者の文学』

講師 岩手医科大学助教授

黒沢 勉 先生

#### 〈講師紹介〉

黒沢先生は1945年10月4日青森県十和田市生れで、1968年東北大学文学部国文科卒業後、県内高等学校の教諭を経て、1990年より現職についておられます。専攻は病者の文学、日本語研究です。

先生は、1991年「北の文学」第22号「詩と死—村上昭夫の詩と生涯」で入選、1992年「北の文学」第25号「風雅の一徳—正岡子規における病いと文学」にて優秀賞を受賞しておられます。

現在、雅号風馬として俳誌「焔」「雪」等に執筆、活躍しておられる先生です。



岩手医大助教授 黒沢 勉 先生

私など「柿食えば…」が正岡子規の句だ、位の知識で講演をお聞きしましたので、会員の皆さんに要旨さえも伝えることも出来ないと思いますが、先生はプリントも作って参りまして、大変解りやすくお話をして頂きました。

講演は「病」と言う言葉についてと、詩人村上昭夫（昭和2年岩手県東磐井郡大東町生れ、岩手中学校卒業、昭和25年肺結核に罹患、昭和43年没）、正岡子規（慶応3年愛媛県松山市生れ、明治29年より脊椎カリエスに罹患、約7年間の臥床生活を送り、明治35年没）の

二人についてでした。

村上昭夫氏は石川啄木、宮沢賢治に次ぐ岩手から輩出された詩人で、肺結核に罹患し、闘病生活を送り自分の仕事も失い、同じ病棟に居る毘ふさ子と結婚するも一緒に生活も出来ず、我々から見ると家庭的にも社会的にも不幸な一生であったが、「昭夫の詩集」「動物哀歌」を例にあげて、やがて来る「死」に対して「死の眼鏡」を通して世の中を観て、捨てられ、皆からのけものにされ疎んぜられた野良犬を可愛がったり、犬の命について、自分が病気であることの共感から、同じ生物

としての動物の命に対する慈しみが滲み出ていると説いておられました。死を意識しながら生きとし生けるものすべてが兄弟であること、病気を呪わず、病気をしたことで色々なことを知ったとして病気に感謝をしている気持ちが歌われていると云う。

又、正岡子規については私も子供の頃記憶にあります。脊椎カリエスの人が夏の暑い日にトタン葺の屋根に布団を敷き瘻孔から膿汁を出しながら日光に当たり薬もなく、只、太陽の光線による殺菌効果を求めていた人を見たことがあります。子規も7年間腰の囲りに10数ヶ所の瘻孔が開き、膿汁が流れ、油紙、包帯につつまれ昼夜激痛に襲われ大声で泣き叫ぶ闘病生活を送りつつも「病状六欠」「墨汁一滴」「仰臥浸録」等の随筆等病床にあって書き上げ、子規→ほととぎす→結核と自分は結核であることを世間に宣言し、子規の文学はこの病気によって生れたと云われます。

「ガラス箱に金魚を10ばかり入れて机の上においてある。余は痛みを堪えながらつくづくと見ておる。痛いも痛い、きれいなこともきれい」等の文章を引用し、子規は坐ることさえ出来なかったが、どの様にしたらこの病苦と共に生きるかを考え、それは「美」を発見し、そして楽しみを求めることであつたと云う。「焼くが如き昼の暑さ去りて夕顔の

花の白きに夕風そよぐ処何の理屈か候べき」の一文を例にとり焼くが如きは、焼ける様な痛みの意でその中に夕顔の白い花を見て、美しさを発見したと、又、子規は結核であり本来なれば、感染を恐れて、人が近寄らないはずなのに俳人、歌人、弟子達が沢山集まり、孤独感を覚えずに死ぬ2日前迄書きつづけた。痛みを通して美しさを感じ、そのことによって痛みを忘れ、食べることにも楽しみを求め、痛いから快楽を求め、苦しみの中に生きる楽しみを求め、書くことによって生きる楽しみを求め、書くことによって苦しみから逃れることができた、面白い、面白いと云う言葉をくり返していると云っております。

二人に共通していることは、不治の病気にかかり死を目前にしても、その病気と共に生き、むしろ病気をすることによって新しく発見し、又今までになかったものを自分の中に見だし、それに感謝している姿の様に思えました。

私共もエイズ、癌の告知等により、死を意識して生きる人達に接する機会が多くなることと思います。又、学校保健でも登校拒否、校内暴力等、心の病気が増えております。この様に病める者の心を別の視点からとらえた講演は大変興味深く有意義なものと思ひ、私の拙文を添えて私の責は終りとします。

(尚この研修会には県医師会より補助金を頂いております)

## 岩手郡医師会社会保険医療担当者集団指導について

保険担当理事

高橋 孝

岩手郡医師会では平成4年10月3日(土)午後3時より、適正な保険診療を行なうために、岩手県生活福祉部保険課白倉義則指導医療官、同佐々木光夫医療事務指導官の2人の講師をお招きし集団指導を岩手県医師会館で開催致しました。

郡内45医療機関のうち41医療機関が出席し、医療機関とすれば殆どの機関より事務担当者及び会員が出席したので、一つ一つについて

は詳述するのは省略します。

初めに白倉指導医療官からの御挨拶の中で、高橋牧之介郡医師会長が岩手県医師会の保険担当理事として、長年保険問題にたずさわって参りましたので、岩手郡医師会々員の方々は保険については良く精通している様ですがと前置きされ、最近の保険診療のトピックス、例えば、ヴェノピリンの適応の変更(6月3日より癌性疼痛、術後疼痛だけとなった。)、

C型活動性肝炎のインターフェロン使用（使用開始日を記載のこ）についての肝生検除外例、年末年始休日加算、サンプルの取扱い（7月1日より使用できない）について等々、14項目について詳しく御指導がありました。

続いて、岩手郡医師会より各町村単位で提出した質問に対して、12項目について各々詳しくお答えをいただきました。

次いで、講師の先生方が用意された資料に則り、約100の質問に私が質問の部所を読み、講師の先生方に御指導、御回答をいただく形

式で進み、質疑応答等もあり、終了時間は大凡そ午後5時半でした。

残念なことは、参加者は94名でしたが、郡内会員数62名のうち医師会員は31名でした。色々とお都合の悪い先生方もおありと思いますが、多数の保険医である先生方の御参加をいただきたく思いました。

また多数の事務担当者も参加されて、明日からのレセプト業務に非常に参考となるものでした。

## 郡 医 師 会 講 演 会

日 時	11月28日(土) 午後3時より		
場 所	八幡平ロイヤルホテル		
特別講演	盛岡大学学長	高橋富雄先生	
	演題 『志和城・徳丹城と岩手郡』		
話題提供	1) 医政関係	高橋牧之介先生	
	2) 日常保険診療上の問題点	西島康之先生	
懇親会	岩手郡医師会忘年会		

### 演 題 『志和城・徳丹城と岩手郡』

盛岡大学学長 高橋富雄先生

#### <講師紹介>

高橋先生は大正10年生れ、和賀郡和賀町（現北上市）出身、東北大学文学部史学科大学院卒業後、東北大教養部の講師・助教授を経て昭和38年東北大教養部教授、昭和57年宮城県文化財保護審議会委員、昭和60年盛岡大教授・文学部長、平成2年10月盛岡大学長となり現在に至る。



盛岡大学学長 高橋富雄先生

#### <要旨>

日本全体からみて村の組立てが始まったのは、奈良・平安時代からであり、現在の岩手県のうち岩手郡の占める位置関係は北のはずれであり、最果ての村作りとして岩手郡、志和城、徳丹城（志和城は水害が多く、そのために場所を移転したのが第2志和城、即ち徳丹城であった。）が郡役所の施設、官庁としての役割機能を果たしていた。政治・文化が国家の責任において、この地域が最北端であった。

東北新幹線が盛岡止りで完成されたということは、約1200年前に日本の国の道路はこの

地域がターミナルであったことと相通ずるものがある。

花巻市付近は、遠胆沢といわれた所であり、花巻市内を流れる豊沢川と地名的にも似かよっており、これもまた胆沢より遠い所という意味とも相通ずるものがあるのではないかとと思われる。

胆沢城（804年坂上田村麿が築城した）周辺の郡部は、水沢、江刺、花巻、和賀郡、稗貫郡を統治していたものと思われる。

北上川は盛岡が上限で、生活・政治の川であり、物資を運んだ河川であった。また盛岡以北は川幅も狭く、流れが急峻である。

雫石川・中津川が合流する盛岡からの北上川は、一関の狐禅寺峡谷で北と南に別れる所であり、この狐禅寺付近はまた流れが蛇行しているため、特に雨水が増水する頃は北上川では水害が一番多いところでもある。

前方後円墳という遺跡は、胆沢町角塚に県内で只一つの古墳があり、ここには埴輪も出土している。

矢巾町徳田の遺跡は、徳丹城に関するもの

が殆どであり、志和城は約10年位で終り、その後の機能は徳丹城に譲ることになった。

西根町の七時雨山より南が岩手郡であり、この「ななしぐれ」は流しぐれ — 即ち最果ての意味で、ここまでが時の政府側として責任をもって支配する地域であった。

奥六郡（胆沢郡、江刺郡、和賀郡、稗貫郡、岩手郡、志和郡）は安倍氏の支配下であった。また志和郡の高水寺城は、志和城付属の神宮寺であり、寛武天皇のとき坂上田村麿が継承している。ここは北上川の最果てを守る寺・神社として祀られていた。

以上のような内容であったと思われませんが、当時の志和、岩手郡付近の城を中心とした国の占める位置、役割などについて、遠い昔の歴史をさかのぼって平易に解説してくれた。

講演会のあと高橋郡医師会長が、最近の日本医師会の動向について — 医療法改正に関すること。西島理事が、審査委員会からの報告事項などを話題提供したあと場所を移して、懇親会・忘年会となった。

## 平成4年度岩手県民健康講座カリキュラム

場所：松尾村総合福祉センター

回	開催年月日	講座内容	時刻	担当講師	所属
1	平成5年 1月20日(木)	開講式	13:00~13:30		あいさつ 岩手保健所長 岩手郡医師会長 松尾村長
		1.食物と病気	13:30~14:10	一ノ渡 義 巳	岩手保健所長
		2.小児の事故	14:20~15:00	伊藤 伸 郎	伊藤小児科医院々長
		3.更年期を健やかに 過ごすために	15:10~15:50	嶋 信	嶋医院々長
2	平成5年 1月27日(木)	4.病院の食事よもやま話し	16:00~16:40	山 口 芳 光	東八幡平病院栄養士
		5.糖尿病の予防と治療	13:30~14:10	成 島 忠 勝	東八幡平病院副院長
		6.癌を予防するための 生活習慣	14:20~15:00	上 田 靖 彦	西根病院々長
		7.生活の中の薬の飲み方 使い方	15:10~15:50	堀 川 秀 雄	東八幡平病院薬局長
3	平成5年 2月3日(木)	8.呼吸器を守る日常生活	16:00~16:40	西 島 康 之	西島医院々長
		9.老年期の精神保健	13:30~14:10	岡 本 彰	玉山岡本病院々長
		10.在宅看護と介護の考え方	14:20~15:00	時 館 千鶴子	岩手保健所保健婦長
		11.家庭で出来る リハビリテーション	15:10~15:50	貴 田 正 秀	東八幡平病院リハ部長
		12.健やかに老いるために	16:00~16:40	及 川 忠 人	東八幡平病院々長

## おらほの先生

家の先生は広い岩手郡の開業医の中で、ただ一人女のお医者さんです。この節、お医者さんもお大変だというのに小柄な体で、よく頑張っているらしいです。環境の良い広い所でという先生の希望で村が斡旋してくれた土地だそうですが、正直言って人家はチラホラ、バスの便は悪く、ただ雄大な岩手山を眼前に牛や馬がのんびり草を喰んでいると言った田舎に、獣医さんならともかく小児科のお医者さんが何を好き好んで（前半生によっぽど辛い経験でもあったのでしょうか、謎です。）

村の人達も期待半分、不安半分だったそうです。ともかく先生は、子供の時、北海道で過ごしたせいか木や緑が大好きです。

病院の囲りには、枝垂桜やライラック、ブラタナス、白樺など落葉樹がぐるりと植えられ、足許には、春から秋まで次々と色んな花が咲いて、それはきれいです。

庭を眺めながら患者さん達も喜んで長居をしているようです。見ていると小鳥も来ますし、雪が解けて春一斉にチューリップと水仙が咲くと、近くの保育園の子供達が遊びに来ます。先生と先生のお母さんの長年の丹精の結果です。

先生はお花を活けたり、観葉植物の手入れを小まめによくされます。開業した時、お祝いにいただいたゴムの木やポトスを今も大事に上手に育てて診察室の一角に置いています。そして伸びた枝はとり木やさし木をして私達に分けて下さいます。

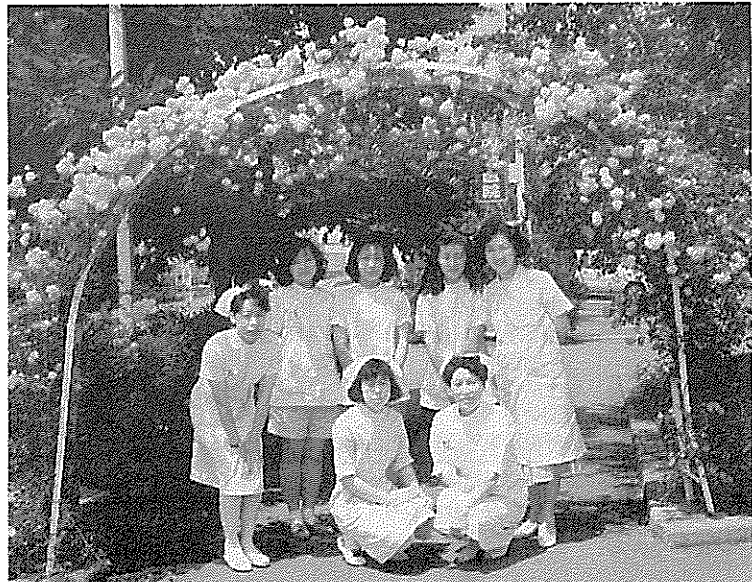
休みの次の日、受付や事務の机の上に庭のコスモスやグラジオラスをそっと活けておいてくれたりします。先生の手が入る

## 滝沢村 山田小児科内科医院の巻

と、何でもない庭の草や木の枝がとても素敵になります。服装のセンスが良く、白衣の襟元にはいつもきれいな色のスカーフが見えます。

先生は中々の勉強家で腕も良く、小児科とアレルギーの認定医の資格を持っています。忙しい日程をやりくりしてよく研究会や学会に出かけて勉強しています。患者さんへの説明はとても丁寧で分かりやすく話すように努力しています。診たてが良く、こじれた風邪も先生にかかるとうよく治るので、大分遠くからも患者さんが来ます。患者離れも良く、大事に至らないうちに、迅速に紹介したり、他の先生に相談したりする態度はとても誠意に溢れていて、患者さんからの信頼も絶大です。私達も本当に嬉しくなります。

朝から晩まで、びっしり話したり、書いたりして、夕方になると肩が凝ったり腰が痛いとおっしゃっています。白髪も少し増えたようです。私達はどう逆立ちしても先生の代わりはできませんので、どうぞお身体を大切にまだまだ頑張っていたきたいと思います。



平成4年初夏、医院の庭で職員と（後列右端 院長 山田先生）

## 随想

## 袖山の紅葉

葛巻町 西島康之

週末の午後、秋晴れに誘われて紅葉を見に馬淵川源流のある袖山をたずねてみた。

ここは標高1000mの山々から連なる北上山地。私をはぐくんだ母なる川。その馬淵川の源流は、くぼ地にこけの生えた石と石との間からコンコンと湧き出している。

そのまわりは全山紅葉、あまりの見事さにはばし山道を散策。ごう然とそびえるブナの大樹の黄葉が渋い染め物のようである。巨樹の鈍い灰色の木肌に怖いまでの神秘さを感じる。

あの馬淵川がこんなところでひっそりと、清らかに誕生していたのである。はるかなる昔から、ここに生を受け継ぎ、尽きることなく流れ続ける水の精達は、今ここから、この一瞬から旅が始まる。源流から頂上までの数キロは、山肌のうねりごと盛り上がる燃えるような紅葉の錦が繰り広げられる。その見事さにおもわず我を忘れてしまう。

途中、外見は何事もないような人間の内部にも悲喜こもごもの葛藤が潜むように、路傍のいろいろの種類紅葉がさまざまな装いで、「Look at us, too, please」と話しかけているようである。

頂上に着く。空気がひんやりする。霧が流れている。夕日に映える紅葉の美しさが冴えれば冴えるほど何か物悲しい。間もなく迫る闇、いや今年の終わりを暗示するせいであろうか。頂上の木々は懸命に美しい装いの紅葉で、今年の別れを叫んでいるようである。

秋の色 また深まりて 一葉落つ

## 短歌

元号の変わりし朝の平成に

吾子は初めて緑児を取り上げぬ

垂乳根の母老いましてその顔の色

つやつやしきに我は安堵す

難手術終えてさやけし秋空に

白きまだらの鱗雲見ゆ

北上の峯の峽間が霞をり

二十十日の過ぎしこの朝

あまたたび轟音残す戦闘機

雲間に現る冬枯れの山

あしびきの山の黄昏黄金なす

冬の木立の映ゆる霜月

岩手町 坂井博毅

## 岩手郡医師会役員会

日時：平成4年10月6日 pm 6:00 出席者：高橋牧・高橋孝・佐藤・上田・和田・及川・坂井  
場所：盛岡駅前通り H. メトロホリタン盛岡 根本・岡本・篠村・嶋・八角・西島・佐々木

### 〈報告〉

- 1) 第44回岩手県医師会総会・第88回岩手医学会春季総会(7/12)
- 2) 社保国保審査委員懇談会について(7/18)
- 3) 第1回労災部会幹事会について(7/25)
- 4) 第59回勤務医部会移動幹事会について(8/1)
- 5) 第4回東北学校保健・学校医大会について(8/9) 於秋田市
- 6) 第44回岩手県医師会親睦野球大会(8/23)
- 7) 平成4年度都市医師会広報委員連絡協議会について(9/12)
- 8) 第5回理事・都市医師会長合同協議会(9/12)
- 9) 第26回岩手県医師会親睦ゴルフ大会(9/13)
- 10) 救急医療懇談会(9/14)
- 11) 東北医師会連合会総会及び学術大会(9/19)
- 12) 労災保険指定医療機関事務説明会(9/30)
- 13) 社会保険医療担当者集団指導について(10/3)

### 〈協議〉

- 1) 第10回岩手県学校保健・学校医大会(H5/1/17)
- 2) 東北地区産業医研修スケジュール
- 3) 産業廃棄物処理施設建設拠出金について
- 4) 平成4年度県民健康講座について(於松尾村)(H5/1/20、1/27、2/3)
- 5) 岩手県医師会生涯教育講座認定について
- 6) 臨時総会開催について(11/28 於八幡平ロイヤルホテル)
- 7) 盛岡保健医療圏地域医療連携室の第1回生涯教育講座について(10/17 於県立中央病院)
- 8) 岩手郡学校保健会研修会について(於県公会堂 10/24)
- 9) その他

## 編 集 後 記

●アジア初、日本初、'93アルペンスキー世界選手権、盛岡・雫石大会が決定してから5年の歳月が経過した。いよいよ大会も2月3日～14日まで開催される。大会テーマ「雪 ふれあい 感動(Super Snow Sensation)」のもとに、白雪の舞うスキーコースで繰り広げられる100分の1秒を争う「感動」を観る者に伝えると共に、心温まる国際交流を通じて子供から大人まで大いに「ふれあい」を楽しみたいものと思います。地元雫石町に与える今後の波及効果は大なるものがあると考えます。

●10月に行われた岩手郡学校保健会研修会で講演していただいた黒沢勉先生(岩手医大助教授)は、文芸誌「北の文学」第25号において文芸評論の分野からは初めての優秀作賞を受賞された方であり、その評論「風雅の一徳—正岡子規における病いと文学」に対し高い評価を受けたものと思います。そしてその優秀作賞贈呈式が11月10日岩手日報社で行われた。今回の講演でも、やむ(病む)、やめる(止める)、せやみ(背病)、なやむ(悩む)という日本語の使い分けの話から始まり、病者の文学、今回受賞の対象となった正岡子規についても触れられ、  
卵の花をめぐってきたか時鳥  
卵の花の散るまで鳴くか子規  
など子規の雅号の由来から病い(結核)に倒れ、死を意識する文学者子規の作品と合わせ、食べ物に対

する執着ぶりと病苦の現実とも遊ぼうとするもう一人の子規を語ってくれた。これからますます発表の場を得て、「病者の文学」をテーマに発展されることを期待します。

●11月に行われた講演会は、文学者・歴史学者の盛岡大学学長の高橋富雄先生の我々の普段の生活と離れた分野での歴史をさかのぼっての、志和城、徳丹城の占める位置・機能・役割について、またそれに関わった北上川周辺の生活機能など、大変解り易い歴史講座でした。

●「おらほの先生」は、滝沢村の山田先生にお願いしました。先生の女性としての職員への心づかい、花いっぱい職場の雰囲気印象的で、とても素敵で状況がわかるような気がします。

●松尾村で始まる県民健康講座のカリキュラムが出来上がり、1月20日より開始されます。

●西島先生の随想は、周囲の様子、感動の場面を鮮明に思い浮かべ、句に託して頂き誠にありがとうございます。

●坂井先生の短歌は、大分以前に投稿して頂いたものですが、今号及び次号に分けて掲載したいと思います。どうもすみませんでした。

●皆さんから短歌に限らず、色々なことについて疑問を持っていることなど多数投稿歓迎します。

(M.S 記)